

平成17年12月19日

GPA制度における「パス・ノンパス(P/NP)制度」の導入について

総長室・教育改革室

GPA・上限設定・成績評価実施検討WG

- 1) 「パス・ノンパス(P/NP)制度」とは、学生の申請によってGPA適用除外科目を選択できる制度で、米国ではGPA制度と不可分・一体の制度として広く採用されている。以下では、これと併せて、特定の授業科目をGPA適用除外科目とする制度についても検討する。
- 2) 「パス・ノンパス(P/NP)制度」の趣旨：「学生の学習意欲の維持と全科目を力を入れて学ぶことから各科目の消化不良の防止と負担の軽減を図り、効率よい履修を行うことを目的とする」(平成9年度北海道大学年次報告書)
- 3) 平成14年12月の「「秀」評価及びGPA制度導入について(報告)」(成績評価等検討WG)では、「学生の申請によって、GPA適用除外科目を認めるかどうかについては、各学部の判断に委ねる」「この制度を導入するにあたっては、どのような範囲で認めるか、割合等をどのように設定するか、を各学部で規定することが必要である」とされている。
- 4) 平成16年12月の「「秀」評価及びGPA制度の実施について(報告)」では、「「評価せず」、及び「合格・不合格」による評価は計算式に算入しない」「(4)学生の申請によってGPA適用除外科目を選択できる制度：この制度は本来、学生の幅広い学習の意欲に応えるために設けられるものであるが、上記(3)を対象科目とすること等との関連で、当面は導入しない」とされている。
- 5) 17年度2学期のデータを見ると、一般教育演習の履修者数が16年度の886人から17年度は720人に急減しており、GPA制度の導入と、1学期のGPAデータに基づく修学指導の影響が出ている可能性もある。これに加えて、18年度には履修登録の上限設定と「評価せず」の廃止が予定されているので、学生がさらに極端に履修科目を絞り込み、教養科目の「幅広い履修」が制約される危惧が強い。
- 6) 教養科目の「幅広い履修」を奨励する一つの方策として、「平成18年度入学者の第1年次における履修登録上限設定について」(平成17年10月25日)では、「成績上位の半数には暫定特例措置により幅広い学習を促す」制度が提案されている。
- 7) 「幅広い履修」を確保するためには、これに加えて、「パス・ノンパス(P/NP)制度」の導入を積極的に検討する必要があると考えられる。
- 8) また、「不可評価の取り消し制度」についても検討し、選択必修科目・選択科目については「不可」評価の取り消しを認めない現行制度では、「評価せず」を廃止した場合、「幅広い履修」を抑制する効果が強すぎることから、すでに評価を受けた科目(特に選択科目等で「不可」評価の場合)についても、一定の条件(卒業に必要な最低修得単位数を超える単位について

等)で、学生の申請によって遡ってG P A適用除外を選択できる制度を検討するのが適当との結論に達した。

* これと関連して、平成 14 年 12 月の「報告」では、「進学、卒業に際しての留年者、退学者については、通常の制度の下において「不可」科目の再履修や新たに履修した科目で好成績を取ることによってG P Aのアップを図らせることも考慮すべきである」とされている。

9) 「パス・ノンパス(P / N P)制度」の設計

- (1) 学期G P Aと通算G P Aの位置付け・利用方法の差別化をはかり、「パス・ノンパス(P / N P)制度」は通算G P Aの中で設定する。
- (2) 学期G P Aは当該学期の学修状況を示す指標とし、利用方法も、基本的に、次学期へ向けての修学指導に限定する。
- (3) 通算G P Aは、卒業に向けて広い視野で見た学修状況・成果を示す指標とし、さまざまな判定の資料として利用する。
- (4) これにより、既修得単位認定、新設の英語単位「優秀認定」の制度により認定された単位は、当該学期以外の時期における学修に基づいているので、学期G P Aには算入せず、通算G P Aにのみ算入することとする。【平成 18 年度より適用を検討】
- (5) G P A制度と連動した「厳格な成績評価」の画一的な適用には馴染まない科目がある場合(たとえば、体育学A(実技)、情報学等が考えられる)、当該科目に「パス・ノンパス(P / N P)制度」を適用する。その場合、学期G P Aにおいては5段階で評価し、通算G P Aにはこの成績は算入しないこととする。【平成 18 年度より適用を検討】
- (6) 「学生の申請によってG P A適用除外科目を選択できる制度」(履修登録時の申請)についても、選択科目等について、同じく、学期G P Aにおいては5段階で評価し、通算G P Aにはこの成績は算入しない方式により、「パス・ノンパス(P / N P)制度」の適用を検討する。【平成 18 年度2学期以降に向けてさらに検討】
- (7) 「すでに評価を受けた科目(特に選択科目等で「不可」評価の場合)についても、一定の条件(卒業に必要な最低修得単位数を超える単位について等)で、学生の申請によって遡ってG P A適用除外を選択できる制度」についても、同様の方式による導入を検討する。この場合、遡っての申請となるため、申請の手順・時期等について、実務的な検討が必要である。【平成 19 年度以降に向けてさらに検討】
- (8) 上記の方式による「パス・ノンパス(P / N P)制度」の導入は、成績分布の公表、履修登録単位数の上限設定の下での「幅広い履修」の確保、成績証明書におけるG P A記載等の問題とも密接に関連する。今後は、これらの問題も視野に入れて総合的に検討し、全体としてシンプルで分かりやすいG P A・上限設定・成績評価制度の確立を目指す。

検討経過

平成17年度

- | | |
|------------|---------------------------------------|
| 第9回WG | 11月18日(P/NP)制度について検討) |
| 第8回教育改革室会議 | 12月8日(「パス・ノンパス(P/NP)制度」の導入について(案)了承) |
| 第10回WG | 12月12日(「パス・ノンパス(P/NP)制度」の導入について(案)確定) |
| 第3回教務委員会 | 12月19日(「パス・ノンパス(P/NP)制度」の導入について了承・確定) |

参考文献

- ・平成9年度北海道大学年次報告書～来るべき新世紀に向けて～第 部 学業成績評価について
<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/tenken/gaiyou.html>
- ・成績評価基準の明示と厳格な成績評価の実施等について(平成14年6月)
<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/grade/Committee.html>
- ・「秀」評価及びGPA制度の実施について(報告)(平成16年12月)
<http://infomain.academic.hokudai.ac.jp/GPA/gpa.pdf>
- ・「秀」評価及びGPA制度の実施について(Q & A)(平成17年3月)
<http://infomain.academic.hokudai.ac.jp/GPA/q&a.pdf>
- ・1年次における履修登録単位数の上限設定について(平成17年5月)
<http://infomain.academic.hokudai.ac.jp/GPA/matome-3.pdf>